

公認心理師国家資格試験対策システムによる 基礎力養成法開発の試み (1)

○宗田直子・大杉朱美・水師葉月・日下部典子
(福山大学人間文化学部)

問題と目的

公認心理師養成において、公認心理師国家資格試験の合格率を向上させるための試験対策システムの開発、大学生・大学院生の基礎力養成、そして自主的な勉強をはぐくむ環境づくりが必要である。ICTの活用及びBYOD時代に相応しい教育システムの開発が求められている。

荒木他(2018)は、学習用SNS(social networking service)の利用の継続による生徒の学習態度の変化を、高校生を対象として検討した。高等教育機関においても、SNSを学習に取り入れることにより、自主性や学習意欲の向上、学力の向上等が図られるかを検討する必要がある。

そこで本研究では、公認心理師国家資格試験対策システムによる基礎力養成法の開発のために大学院でのオンライン及び対面での試験対策勉強会を実施し、参加学生の意識の変化および学力の変化を調査することを目的とする。勉強会は、以下の2つの方法により実施することで相乗効果が期待され、基礎力の向上と意欲の向上がみられると予測する。

(1) Slackを用いたオンライン勉強会

学生に身近なSNSの1つであるSlackを用い、公認心理師試験過去問題および解説を配信する。場所を問わず実施できる点で大きなメリットとなる。

(2) 対面による勉強会

公認心理師資格を持つ教員が、対面方式の勉強会を開催する。教員が直接学生の質問に答えられる他、参加学生間で試験勉強について話し合える機会を創出できる点がメリットである。

方法

勉強会の実施 いずれの勉強会も、2024年7月から11月の間に実施した。Slack勉強会として、不定期で合計70回の過去問題及び解説の配信を行った。対面勉強会は、2週間に1回のペースで、計8回実施した。

調査用紙 研究に対する同意を求めたのち、Slack勉強会と対面勉強会についての自由記述式調査を実施した。勉強会への感想とその理由、勉

強会前後での気持ちと学力の変化、試験への思いについて、記入を求めた。

調査時期 2024年10月であった。

対象者 勉強会の参加者は、公認心理師養成の私立大学大学院修士課程に在籍の学生12名(Slack勉強会の参加者は12名、対面勉強会の参加者は10名)であった。調査の協力者は、Slack勉強会の参加者4名、対面勉強会の参加者4名であった。

倫理的配慮 本調査は福山大学研究安全倫理委員会の承認を得たうえで行われた(承認番号2024-H-50号)。

結果と考察

Slack勉強会に対する自由記述式調査の結果、「見たい時に見ることができる」、「知識が増えた」という良い意見がみられた。一方、気持ちの面では、4名ともモチベーションの向上にはつながらず、「危機感が高まった」という変化のみであった。また、「習慣化が難しい」という記述が見られたことから、Slackの配信方法等について再考する必要性が示唆された。

対面勉強会に対する自由記述式調査の結果、「勉強に集中できる環境」、「定期的に勉強の時間を確保するための良い機会」、「対面ならではの良さ」という環境面が高評価を受けた。また「勉強へのモチベーションが一時的に上がります」や、「勉強しなくちゃと思うようになった」という心理面での記述がみられた。本研究は短期間での変化のみ検討したが、今後は長期間での変化を調査し、意欲の継続や学力の向上のための取り組みをより詳細に検討する必要がある。「会話を通して知識が広がったり、理解が深まったりするのが楽しく、勉強のモチベーションにもつながると思った」という記述からも示されるように、アクティブ・ラーニングを活用する重要性が示された。

付記

本研究は、令和6年度福山大学教育振興助成金「特色ある教育方法開発助成金」の助成を受けて行われた。